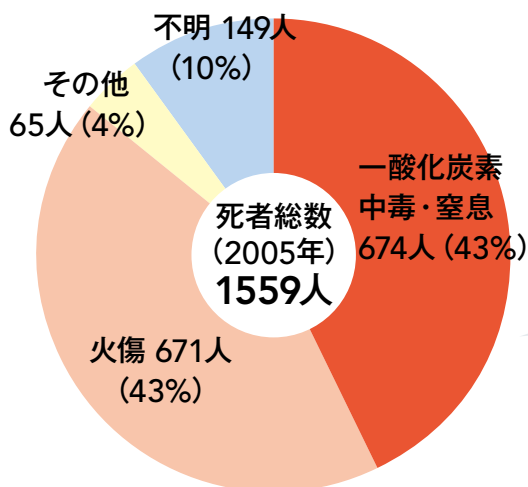


# 塩ビの防火性と火災時の安全性

(火災から身を守る「塩ビ」)

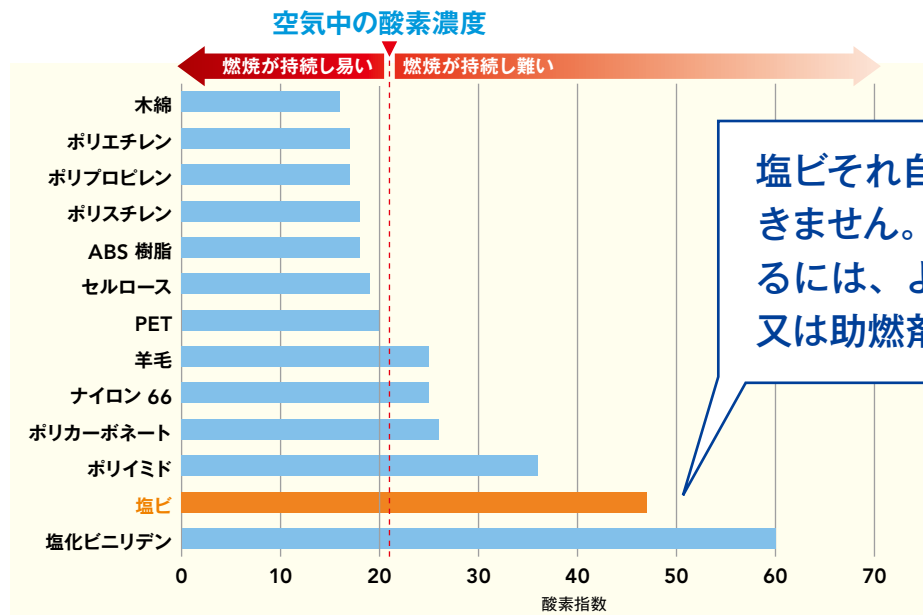
1. 焼死者のほとんどは、一酸化炭素中毒と火傷が死因です。(2005年)



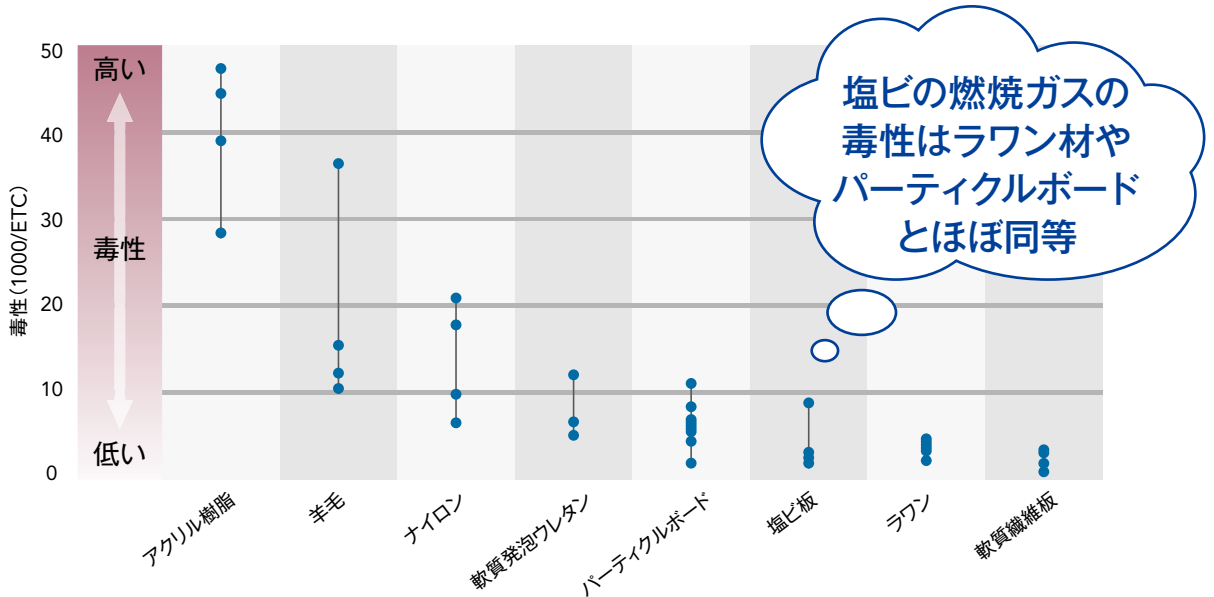
身の回りにある木材、繊維製品、紙など多くのものは燃え易く、火災時には有毒な一酸化炭素が発生します

**火を出さないことが最重要課題です**

2. 塩ビは火がつき難く燃えにくいので、火災発生を防ぎます。



### 3. 塩ビ製品は他の素材に比べて、燃焼時に発生するガスの毒性は低いです。



ETC: Effective Concentration Time; マウスの燃焼ガス曝露濃度とマウスが行動を停止するまでの時間との積

### 4. 塩ビ製品が燃えると塩化水素ガスが生じますが、実際の火災ではその発生はわずかです。

火災現場のガス分析例 (最高値)

一酸化炭素	50,000 ppm
シアン化水素	350
塩化水素	50
SO <sub>x</sub>	117
NO <sub>x</sub>	50
CO <sub>2</sub>	80,000

東京消防庁調査：13例の火災現場の最高値

塩化水素の毒性は一酸化炭素と同じレベルですが、火災現場でのガス分析によれば、発生する塩化水素の濃度ははるかに低いことがわかります。

燃焼ガス成分の致死濃度 (ppm) (動物実験による30~60分で死に至る濃度)

シアン化水素	塩化水素	一酸化炭素	アンモニア
100~240	1,000~2,000	1,500~2,000	2,500~4,500

塩化水素の致死濃度は一酸化炭素のそれとほぼ同等です